

2021 年 6 月号

J T C C ニュース (日本繊維技術士センターニュース)

I. (日本繊維技術士センターの行事予定)

(一社) 日本繊維技術士センターのホームページは、「繊維 J T C C」で検索できます。

< J T C C 講座のご案内 >

(各講座は、募集人員の制限、オンライン化などコロナ対策を行っています。)

◆JTCC「第82回 公開講演会」(繊維部会)

詳細は6月1日以降の JTCC ホームページで確認をお願いします。

(詳細、参加申し込みは J T C C ホームページをご覧ください。)

回	テーマ(講師)	日時	会場
83 回公開講演会	阿波製紙(株)における研究開発について 阿波製紙(株) 横田 博氏	2021 年6月11日(金) 13時30分~16時30分	オンライン開催します
	脱酸素社会に向けての繊維産業の手立て JTCC 森本國宏氏		

公開講演会の参加費: 2000 円 資料のみは 1000 円

◆技術士第一次受験講習会(講義は全てオンラインで行います。Teams 使用)

受講希望者は JTCC ホームページを参照してください。

回	月日	テーマ
1	6 月 5 日(土)	適性課目、基礎科目(設計・計画・品質管理)
2	6 月 12 日(土)	基礎科目(情報理論と電子材料、解析、化学高分子、他)
3	6 月 19 日(土)	基礎科目(バイオ、環境、エネルギー、他)
4	6 月 26 日(土)	専門科目(紡糸、加工糸)
5	7 月 3 日(土)	専門科目(紡績、織物、ニット、不織布)
6	7 月 10 日(土)	専門科目(染色、浸染、捺染、機能加工、他)
7	7 月 17 日(土)	専門科目(縫製、繊維製品の試験、他)

II. (業界ニュース)

1. 経済産業省

「繊維産業のサステナビリティに関する検討会」を新たに設置します

2015年に国連で「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals (SDGs))が採択され、国際的にサステナビリティへの機運が高まっています。欧州でも欧州委員会(EU)が「サーキュラー・エコノミー・アクション・プラン」を発表するなど、サステナビリティに関する取組が進められています。

繊維産業は、糸や生地の素材の製造に始まり、製品の企画・製造から流通・販売に至るまで、長いサプライチェーンを築いていることが特徴です。各工程においてサステナブルな取組が求められており、我が国企業においても、環境に配慮した素材の開発、国際的な認証取得、店頭回収などの取組を開始しています。

加えて、責任あるサプライチェーン管理は、今後の企業経営にとって重要な視点となっております。

また、我が国の繊維産業は、新型コロナウイルスの感染拡大により、大きな影響を受けています。一方で、サステナビリティを踏まえた経営戦略の見直しなど、新たな取組を開始する事業者も出始めています。

本検討会では、こうした状況を踏まえ、繊維産業におけるサステナビリティへの取組を促進するため、「供給構造」、「環境配慮」、「責任あるサプライチェーン管理」等について議論・検討し、とりまとめる予定です。

1回目	2021年2月25日	2回目	2021年3月29日	3回目	2021年4月9日
4回目	2021年4月23日	5回目	2021年5月18日		

今年の夏に取りまとめを行う。

2. 環境省(2021年3月号より新設)

環境省が「サステナブルファッション」について資料を提供しています。

内容は、“衣料品が環境に与える影響”を取りまとめています。

ネットで見てください。(「[環境省サステナブルファッション](#)」で検索できます)

マイクロプラスチック削減に向けたグッド・プラクティス集の取りまとめについてマイクロプラスチックの削減については、世界的にも技術が確立していないものも多くあります。そのような中、実効的に汚染を削減していくには、日本企業が有する技術・ノウハウを、マイクロプラスチックの発生抑制・流出抑制・回収の観点から見直すこと、そして、現時点で利用可能な最良の技術・ノウハウを、国内、さらには国外に普及していくことが重要です。

こうしたことを踏まえ、今般、環境省において、マイクロプラスチックの発生抑制、流出抑制又は回収に資する日本企業等の取組や技術を、グッド・プラクティス集として取りまとめましたのでお知らせいたします。

グッド・プラクティス一覧

1. 繊維くずの流出抑制効果を高めた洗濯ネット(株式会社アダストリア)
2. セルロースによる化粧品用代替素材開発(株式会社ダイセル)
3. 濾過装置を具備するバラスト水処理装置を使用したマイクロプラスチックの回収
(JFE エンジニアリング株式会社)
4. 船外機のマイクロプラスチック回収装置(スズキ株式会社)
5. 人工タンパク質繊維の実用化開発(Spiber 株式会社)
6. 人工芝の流出抑制実証実験(住友ゴム工業株式会社)

7. 繊維くずを抑制する機能性衣料用繊維構造体(帝人フロンティア株式会社)
8. 繊維くずの測定試験方法の国際標準化(日本化学繊維協会)
9. 被覆肥料殻を圃場外へ流出させない対策(日本肥糧アンモニア協会)
10. 樹脂ペレット等の流出抑制活動(日本プラスチック工業連盟)
11. 海洋生分解性プラスチックによる水耕栽培用培地の開発(プランツラボラトリー株式会社)
12. セルロースによるマイクロプラスチックビーズの代替(レンゴー株式会社)

以下の添付資料(具体的な活動内容が説明されています)

- ・ [マイクロプラスチック削減に向けたグッド・プラクティス集 \[PDF 3.9 MB\]](#)

3. 日本化学繊維協会、日本綿業振興会、日本染色協会

●日本化学繊維協会 (詳細は化繊協会のホームページ参照してください)

第 13 回アジア化繊産業会議の開催について

2021 年 4 月 22 日(木)13:30~16:30(日本時間)に第 13 回アジア化繊産業会議(パート I)が日本の主催のもと、オンライン会議(ZOOM)にて開催されました。

同会議には、アジア化繊産業連盟(ACFIF)加盟の 9 カ国・地域の会長および事務局長が参加し、サステナビリティに関する様々な各国・地域の課題や取り組みについて、活発なプレゼンテーション、意見交換が行われました。

会議の最後には、ACFIF 各国・地域で共有されたサステナビリティに関する認識について、「持続可能な社会の実現を支えるアジアの化学繊維産業」と題するポジションペーパーとして対外的に発信することで合意いたしました。

○9 カ国・地域の集合写真





1. 経緯及び方針

第 13 回アジア化繊産業会議は、今年、24 年ぶりに日本が主催国となり、サステナビリティを会議テーマとして企画しました。新型コロナウイルス感染症の流行により、加盟各国・地域が一堂に会する対面式の開催が困難となりましたが、サステナビリティに関する関心の高まりや具体的な動きが世界的に進んでいることを踏まえ、タイムリーに課題認識を共有し発信することが重要であると考え、会議を 2 回に分けて、パート I 会議を当初予定していた日程である本年 4 月 22 日にオンラインで開催し、パート II 会議を来年 4 月に対面式で開催することとしました。

4 月 22 日のオンライン会議では、サステナビリティに関するアジア化繊産業の課題を整理し、議論した結果、ポジションペーパーとして、共通認識を取りまとめました。

2. ポジションペーパーの概要

ポジションペーパーは、3 章構成となっています。まず、第 1 章では、「アジア化繊産業の使命」として、世界の化繊生産の約 9 割を占めるアジアの化繊産業が、持続可能な社会の実現へ製品によって貢献していく一方で、環境への負荷などの負の影響を重要な課題と捉えて解決に向けて取り組むことを述べています。次に第 2 章では「新型コロナウイルス感染症の影響」として、特に永続的な影響として注目すべき持続可能性に関する動きについて述べています。そして、このポジションペーパーの中心である第 3 章では、「持続可能な社会の実現を支えるアジアの化学繊維産業」として、持続可能な社会の実現に向けたアジア化繊産業の取組と課題を述べており、第 1 に「資源循環の実現」、第 2 に「環境負荷の低減」、第 3 に「持続可能な社会の実現に貢献する化学繊維製品の拡大」の 3 種類の区分で、サステナビ

リティに関する様々な課題について整理しました。今後 1 年間、このポジションペーパーをもとにアジア化繊産業連盟
各国・地域が情報共有など連携しながら取組を進め、2022 年 4 月のパートⅡ会議にて進捗を確認したい。
(詳細は化学繊維協会のホームページかた検索してください)

プレスリリース「内外の化繊工業の動向」 2021. 4. 30

「2020年 年間回顧」

概要 (2020 年年間回顧) 2020 年は、新型コロナウイルスが世界全体のパンデミックに広がり、世界経済およびわが国の経済にも深刻な影響を与えた。日本経済は、最初の緊急事態宣言が発せられた 4~5 月を底に年央からやや持ち直しているが、2021 年初旬の感染拡大第 3 波や、緊急 事態宣言の再発出などが回復基調に水を差し、先行きの不透明感は強い状況である。こうした中、2020 年の繊維需要は、緊急事態宣言に伴う、小売店舗の臨時休業や各種のイベントの中止、延期などが影響し、末端の衣料需要はかつてないほど大きく落ち 込んだ。また、自動車生産は年央に大幅な減少となり、住宅茶工、公共工事なども減少 した。そのため、自動車関連、産業資材関連など非衣料分野の需要は、衛材などの一部を除き、ほぼ全ての用途で大きく収縮した。この結果、2020 年第 2 四半期以降、日本の化繊需給は大幅な調整期に入り、2020 年の化繊生産は 2 桁の大幅減となった。

(詳細は化繊協会のホームページをご覧ください)

環境

Lenzing、2020 年版のサステナビリティレポートを発行

大手セルロース繊維メーカーの Lenzing Group が、4 月 22 日の世界アースデイにあわせて、同社のサステナビリティレポート 2020 を発表した。同報告書の概要は以下の通り。

Lenzing は「コロナウイルスとの闘いが最優先事項であるときでも、気候中立と持続可能性を推進することに焦点を合わせた。これらは、人類にとって長期的な重要課題であり続けるため、気候保護、資源効率、生物多様性などの生態学的課題に効果的な対処をすることが、戦略原則の不可欠な部分であり、将来に対する責任であると考えている。」と述べている。

Lenzing は、科学的知見に基づいた目標達成に向け、気候変動問題の克服に積極的に貢献している。2019 年には、2030 年までに製品 1 トンあたりの温室効果ガス排出量を 50%削減することにコミットした。また 2050 年までに気候中立になることを最優先の目標として掲げた。ブラジルとタイでの 2 つの主要プロジェクトの実施は重要である。タイの工場では、CO2 ニュートラルサイトとして持続可能なバイオ由来のエネルギーを供給している。ブラジルの発電所は、発電電力の 50%以上を再生可能エネルギーとして公共送電網に供給し、ネットの CO2 バランスを実現している。

Lenzing の本年のもう一つの重要な成果は、カーボンニュートラルのための世界的な枠組みである The

CarbonNeutral Protocol に基づき認定された初のカーボンゼロの TENCEL™ 繊維の発売である。2021 年 6 月には、初のカーボンゼロ認定のリヨセル繊維を販売予定である。

また、気候保護と資源保護において重要なサーキュラーエコノミーについて、繊維産業全体の基準を設定している。繊維廃棄物の世界的問題の解決策を提供するために、資源効率を高める REFIBRA リサイクル技術を開発している。REFIBRA は、綿衣類製造時のくずや使用済みの衣類からの繊維廃棄物をリサイクルして、商業規模で新しいリヨセル、モダル繊維を製造できる世界で唯一の技術である。

同社は、2020 年に新しい持続可能性目標を設定し、このビジョンを実現するための対策を実施している。同社は、2025 年までにサプライチェーンと協力して、可能な限り生産循環できるように最大 50%のリサイクル素材を含む短繊維を工業規模で製造することを目指している。」と CEO の Stefan Doboczky は述べた。

Lenzing は、サプライチェーンの透明化は環境保護と同様に繊維産業にとって大きな課題であるとして、TextileGenesis との協力でブロックチェーン技術をベースとした革新的なソリューションを提供している。この技術は、ファイバーから流通の段階までのトレーサビリティを可能にするため 2020 年に開始された。

2020 年、同社はサステナブル分野での業績に対し、数々の賞を受賞した。

- ・初めて非営利環境団体 CDP による評価を受け、気候と森林のカテゴリーで 2 倍の「A」スコアを獲得した最初の新規参入企業となった。

- ・サステナブル分野で最も高く評価されている格付機関の 1 つである ISS ESG では、サステナブルレートが「C+」から「B-」にランクアップした。これは、「紙と林産物」のカテゴリーで最高ランクである。この結果、企業上位 10%に位置付けられることとなった。

- ・カナダの森林保護 NGO の Canopy の Hot Button ランキング(世界の主要なセルロースメーカーにおける、森林保護への取組み、代替品活用、木材パルプの調達方針、情報開示、第三者認証、原生林地域での事業運営などの観点で評価)で初めて最高のカテゴリーを達成した。過去数年間にわたる継続的なサステナブル調達と資源効率に関して特に評価された。

- ・オーストリアの ATX に関する最高の気候報告で権威ある「Building Public Trust Award 2020」を受賞した。陪審員は、全体的な気候関連の戦略的調整と明確な目標に対するコミットメントを強調した。

- ・LENZING™ Web 技術は Austrian State Prize for Innovation を受賞した。この賞は、Lenzing の業績と、サステナブルイノ

ベーションに基づく成長戦略を表彰するものである。この新しい技術は、繊維と不織布の生産を1つのステップで組合せ、効率、真円度、生態系のサステナブルな面で新しい基準を設定している。

また、Lenzing は、「Naturally positive(自然を積極的に保護する)」をテーマにしたサステナブル戦略で、変化のためのパートナーシップ、循環性の向上、バリューチェーンのグリーン化という3つの戦略原則に沿って運営している。これに基づき国連の SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)にコミットする。

環境

米国大手テキスタイルメーカー、サステナビリティレポートを発表

米国の大手テキスタイルメーカーが、相次いでサステナビリティレポートを発表した。

●Milliken & Company

米国の大手テキスタイルメーカーMilliken & Company が、この度、「第3回年次サステナビリティ報告書」を公開した。同報告書は、「Together for Tomorrow」とのタイトルで、同社のサステナビリティに関する取り組みの視点で業績が分析されている。同社は2018年に、2025年までに達成するサステナビリティに関する取り組みの目標を掲げ、地球、製品、人々を対象とし、現在その目標に向けて取り組みを続けているが、同報告書ではその進捗状況がまとめられている。

同社の President 兼 CEO である Halsey Cook 氏は、「2020年から重大な局面に直面している」とし、「製品ラインの変更や新たな革新により、12件の戦略的カテゴリーのうち10件で、我が社のサステナビリティ指標を見直した。我が社のサステナビリティ・イニシアチブは順調に進んでおり、我々の事業を根本的に変えている」とコメントした。

同社の目標のうち、大きな前進が見られた項目は、下記の通り。

- ・多様性、公平性、包括性を推進するとのコミットメントに基づき、継続的な取り組みをさらに強化する。
- ・医療用ガウンやフェイスシールドなど、新型コロナウイルス対策に貢献する開発や製造に注力する。
- ・新型コロナウイルスの感染が拡大する中、エッセンシャルワーカーの安全を特に優先する。安全第一の企業文化を強化する。
- ・プラスチックの循環に関する議論を強化する。そのために、National Geographic Creative Works の主催によりソーリーダーを集め、実行可能なエコシステムのソリューションの明確化を目指す。

- ・主要な燃料源である石炭が使用されなくなることで、温室効果ガスと廃棄物が削減されるよう、資本投資を継続する。
- ・Borchers を買収する。溶剤や環境影響を低減し、塗料添加剤プラットフォームを拡大する。
- ・ミリケン・リーダーシップ・モデルを発足させ、目的意識を持ったリーダーシップを高めるため、社員を教育する。

●Glen Raven Inc.

大手テキスタイルメーカーGlen Raven Inc.は、同社で初となるサステナビリティレポート「Continuing a Pattern of Good」を発表した。「人々とコミュニティをサポートする」と「地球を維持する」の2つの柱からなるもので、以下の内容が含まれている。

- ・アソシエイト:2025 年までに毎年リーダーシップの多様性を 20%、管理職の女性を 25%増加、全世界でリスクゼロの行動を目標に安全性の向上を図る
- ・地域社会:幼児教育を中心としたボランティア活動への参加率を 100%にする。
- ・環境への影響:2025 年までに自然エネルギー電力を 100%使用、2030 年までにスコープ 1/2 の排出をカーボンニュートラルにする。
- ・循環経済:リサイクル原料の使用を 2025 年までに 5 倍にする。2025 年までに顧客が同社の製品をリサイクルできるよう支援する。2022 年までに全事業所でゼロエミッションを達成する。

●Elevate Textiles

大手テキスタイル企業グループ Elevate Textiles は、2021 年版のサステナビリティレポートを発表した。同報告書では、Elevate Textiles、傘下の American&Efird (A&E)、Burlington、Cone Denim、Gütermann、Safety Components などのサステナビリティの目標と、これまでの進捗報告が述べられている。同報告書では、各項目が国連の持続可能な開発目標 (SDG) の公約に沿って構成されており、特に、2025 年までの目標である持続可能な方法で調達された繊維、水消費量の削減、温室効果ガス排出量の削減などに焦点を当て解説しているほか、国連グローバル・コンパクトの 10 原則との連携についても説明されている。

2021 年版の報告書の主な成果は、以下の通り。

- ・「スコープ 1」、「スコープ 2」の温室効果ガス排出量削減に向けた継続的な取り組み (2.5%/年)。
- ・2016 年以降、世界の水使用量を 7.5%削減。
- ・新しい排水技術の導入により、水のリサイクル率を 2016 年より 65%向上。

- ・2025 年までに持続可能なコottonの調達率を 68%の目標に対し、80%を達成。
- ・Sustainable Apparel Coalition (SAC)に参加し、Higg Index を支援するためのリソースを提供。
- ・ZDHC に参加、国連気候行動のためのファッション産業憲章への参加。

繊維景況

ITMF、紡績関連の統計を発表

このほど、国際紡織品製造者連盟(ITMF:International Textile Manufacturer Federation)は、世界各国の繊維生産国における短繊維紡績の錠数や原材料の消費動向に関する統計調査(International Textile Industry Statistics:ITIS)を発表した。

今回の調査では、2019 年に短繊維紡機やオープンエンドローターの設置台数、出荷が全世界で落ち込んだことが明らかとなった。紡績設置錠数は、2018 年の 2.3 億錠から 2019 年には 2.23 億錠に減少した。また、オープンエンド紡機の設置台数は 2018 年の 820 万台から 2019 年には 740 万台に減少した。一方で、エアジェット式の紡機が、アジアやトルコを中心に世界的に拡大している。

地域別にみると、とりわけ、中国では老朽設備の淘汰を進めている。

紡機統計をみると、中長期的には、シャトル紡機は、シャトルレス紡機に代替されつつあるが、シャトルレス紡機の設置台数もここに来て減速気味であり、2019 年の設置台数は、前年比 1%増の 170 万台にとどまった。

原料消費でみると、短繊維関連の原料消費全体では 2019 年に低迷したにも関わらず、セルロース短繊維の消費量は前年比 9%増の 540 万トンとなった。合繊短繊維の消費は同 4%減の 1,420 万トン、綿花の消費量は、横ばいの 2,600 万トンであった。

●日本綿業振興会（詳細はホームページ参照）

- ・ 新情報なし

●日本染色協会（詳細はホームページ参照）

- ・ 新情報なし

3. (一社)日本衣料管理協会、(一社)繊維評価技術協議会(繊維協)

●(一社)日本衣料管理協会

新刊書紹介 :2021年1月に「新訂4版 繊維製品の基礎知識シリーズ」を発売中

2021年度 TES試験のスケジュール(予定)	
試験日	2021年7月11日(日)
日程	4月1日 要項発表 5月10日~28日 願書の受付期間 *受付期間を延長しました。 7月11日(日) 試験日 9月中旬 試験結果発表 11月1日 認定証の交付
試験会場	東京試験場 実践女子大学 渋谷キャンパス 名古屋試験場 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) 京都試験場 京都女子大学 福井試験場 福井大学 文京キャンパス 福井商工会議所 *会場が変更になりました 倉敷試験場 倉敷ファッションセンター/倉敷市児島産業振興センター 福岡試験場 NATULUCK 天神クリスタルビル
※新型コロナウイルスの感染状況により、試験会場の 変更や試験を中止する場合があります。 最新情報は 随時ホームページにてご案内します。	
受験資格	学歴・年齢を問わずだれでも受験することができます。

●(一社)繊維評価技術協議会(繊維協)

認証基準の改定案に対する会員意見の公募について

2021年6月1日付け改訂予定の「SEK マーク繊維製品認証基準(2021年6月1日改定案)」に対する会員の意見を公募します。添付の「主な改定のポイント(案)」をご参照の上、ご意見 ご質問があればホームページの「→お問い合わせ」を利用してご一報ください。(SEK会員のみ対象)

●関西ファッション連合

・なし

企業紹介

岐セン株式会社



私たちの技術力で多様なニーズに応えています。

繊維に感性と機能をプラス。布以外の素材にも！

One more GiSEN

もっと、いいこと。新しいこと。

岐セン株式会社

代表取締役社長 後藤 勝則

〒501-0234
岐阜県瑞穂市牛牧 758 番地
TEL:058-326-8123
<http://www.gisen.co.jp/>



Ⅲ. (技術情報)

詳細な内容は各学会誌、月刊誌をご覧ください。

◆＜繊維学会誌＞ 2021 年 5 月号

＜炭素繊維複合材量のリサイクル技術＞

○炭素繊維強化プラスチックのリサイクルと再資源化の動向

信州大学 朱 春紅、金 翼水、鮑 力民、村上 泰、梶原莞爾

・炭素繊維(CFRP)は航空機やスポーツの用途として多く使用されている。使用後の材料は粗大ごみとして埋め立てに使用されるのが一般的である。リサイクルの方法とその用途について説明されている。

・CFRP のリサイクルの現状

リサイクル方法として、機械的粉碎、熱処理、化学的処理がある。

・リサイクルした材料の再資源化

機械的処理: 強化コンクリート材など

熱的処理: 電磁波遮蔽剤、高モジュラス複合材料など

化学的処理: リサイクル短繊維複合材料など

・国際研究開発 コファンド事業 日本-ドイツ研究開発協力事業(CORNET)について

今後、CFRP破棄材料が大量にでる。これらの有効利用を国やNEDOが研究を行い、ドイツのエネルギー省との国際行動研究を行っている。

○再利用価値を重視した持続可能なCFRP/CFRTP(炭素繊維強化熱可塑性プラスチック)のリサイクル方法
信州大学 施 建、鮑 力

- ・CFRP及びCFRTPのリサイクル方法として、CFRPは、過熱水蒸気によってCFRPを構成しているエポキシ樹脂を熱分解させる方法を紹介している。熱温度を 340℃にすると、約 80%のエポキシ樹脂が分解する。
- ・CFRTPは、連続繊維で強化したCFRTPのリサイクルを紹介している。CFRTPは製造時に樹脂で積層状にする。 溶剤を用いて単層にしてから分断し再度積層して使用する。

○超臨界流体によるCFRPからのマトリックス樹脂の除去技術 静岡大学 岡島いづみ

- ・亜臨界・超臨界水によるCFRPのリサイクル:CFRPを構成する熱硬化ビスフェノールA型エポキシ樹脂を、亜臨界・超臨界水を用いて分解し炭素繊維を回収する方法を紹介している。
(亜臨界・超臨界水とは、水の臨界点が 374℃、22.1MPa である。この温度と圧力を超えると超臨界水、臨界温度未満でそのおんどの飽和水蒸気圧以上の水を亜臨界水と呼ぶ。)
- ・亜臨界・超臨界アルコールによるCFRPのリサイクル
- ・その他の亜臨界・超臨界流体を用いるCFRPのリサイクル

○ASR 由来プラスチックと炭素繊維を用いた電気的・機械的性能に優れたコンポジットの開発

九州工業大学 西田治男、脇坂 港 福岡県工業技術センター 木村太郎、蓮尾東海
近畿大学 河津博文 金沢工業大学 附木貴行 (株)サイム 土田保雄 土田哲大
・航空機や自動車に使用されている CFRP について、その再利用を提案している。自動車シュレダーダスト(ASR)と炭素繊維のコンポジットさせた材料の紹介とその物性や性能を評価している。

＜繊維・高分子の測定法(12)＞

○年度測定による高分子の評価 (株)東ソー分析センター 高取永一

＜業界マイスターに学ぶ せんい産業資材の基礎知識—2＞

このシリーズは、2021 年 4 月号より始まり、今後約 2 年間継続掲載されます。

○第2編「産業資材用繊維材料」(1)汎用繊維 (一社)日本繊維技術士センター 齋藤磯雄

・産業資材用汎用繊維各論

- ・セルロース系再生繊維
- ・ポリエステル繊維
- ・ポリアミド繊維
- ・ポリプロピレン繊維
- ・ビニロン繊維
- ・アクリル繊維
- ・難燃繊維

・産業資材の高性能化

- ・汎用繊維の高強度化技術
- ・汎用繊維の高性能(高強度)化技術の開発例

＜繊維関連の美術館・博物館＞

○文化学園服装博物館 学法 文化学園 田中直人

【繊維学会記念連載】

○商社の変遷 4 商社の素材開発 繊維・未来塾 幹事 松下義弘

◆＜繊維製品消費科学会誌＞ 2021 年4月号

二代川島甚兵衛と室内装飾織物 川島織物文化館 辻本憲志

＜シリーズ「感染症と繊維」＞

○抗ウイルス加工剤 日華化学(株) 竹内齊久
・「ニッカノン」について、抗ウイルス効果が確認できた。その応用事例を紹介している。

＜シリーズ「SDGsへの取り組みと環境配慮型繊維」＞

○スポーツの力を生かしたミズノのSDGs ミズノ(株) 柴田智香

＜シリーズ「高齢者がつくりだす新しい消費市場」＞

○リネンサプライにおける品質管理 ワタキューセイモア 山本恭弘

資料

○我が国におけるサーマルマネキンの使用実態に関する調査報告

文化学園大学 田村照子 京都電子工業(株) 官治沙奈恵

◆＜繊維機械学会誌＞ 「月刊せんい」 2021 年4月号

○運動条件下におけるスポーツアパレル機能性の評価

(株)アシックス 小澤明裕

- ・スポーツに用いるアパレルの、運動に対する身体各部位の衣服圧を測定することで、着やすさの評価に繋げる。

○生分解性セルロースナノファイバー(CNF)を用いた機能性足場材料の開発

国立研究開発法人物質・材料研究機構 西口明広、田口哲志

- ・生分解性材料は、多くの医療材料として使用されている。CNF は生分解性が低いので、改善することで医療材料として使用ができるようにした。CNF に過ヨウ素酸ナトリウムを付与することによる酸化作用を利用した。
- ・生分解性セルロースナノファイバーハイドロゲルの開発
- ・セルロースナノファイバーハイドロゲルに対する細胞・組織応答の評価
- ・セルロースナノファイバーハイドロゲルのワクチン担体としての利用
(ワクチン療法とは、不活性化したウイルスなどの病原体の抗原をアジェバンドと共に投与し、生体の免疫系を活性化させることで、感染症を予防及び治癒する治療法である。)

(月刊誌)

◆＜加工技術＞ 2021 年4月号

○SDGs に向けた染色整理業の環境対応

(一社)日本染色協会 大島直久

- ・繊維産業を取り巻く環境

経済産業省がサステナビリティを推進するために「繊維産業のサステナビリティに関する検討会」新たに実施している。主に取り上げているのは、アパレルの需要と供給のアンバランス、環境配慮など環境省が「環境とファッション」をテーマに勉強会を実施している。

- ・日本染色協会の自主的な取り組み

「低炭素社会実行計画」「VOC 排出抑制に係る自主的取り組み」について報告している。

小ロット多品種な非効率な加工環境や高付加価値製品の増加による工数増加などの負荷増加にも対応してCO2やエネルギー減少をさせている実情を説明している。

- ・VOC の排出抑制については、VOC 回収装置の設置をすすめて排出量の抑制を行っている。

- ・その他の取り組みとして、PRTR 制度の遵守や省エネルギー法の定期的方向を行い、低減している。

SDGsに関わる事項も、重要事項として今後も取り組んでいく。

○サステナブルな社会構築のために —マイクロプラスチックの現状と対策—

(株)クラレ 保城秀樹

- ・SDGsで示されるサステナブルな社会

- ・SDGsで訴える環境保護

- ・海洋ごみとその対策 国別のプラスチックごみの流出量

日本では、環境省が中心になって、積極的に対応が進められている。

- ・マイクロプラスチック問題とその生態系への影響

想定されるマイクロプラスチックの物理的影響、生物への有害物質移行・ベクター効果の懸念

○産業資材を中心とした直近の海外トピックス 3

シオタニ&オフィス 塩谷 隆

- ・サステナビリティ(バイオ、リサイクル、環境対応など)の事例を紹介している

◆＜不織布情報＞ 2021 年4月号

＜特集 不織布の新しい用途を探る＞

○抗菌・抗ウイルス加工繊維製品について

帝人フロンティア(株) 堀之内新一郎

「ウイルサラバ™」は、繊維に付着した特定のウイルス数を 99.9%減少させる。SEK 抗ウイルス加工マークを取得して。用途は、マスク、医療用ガウン、ガーメントケースなど

○クルマ機能シートがオフィスチェアに

本田技研(株)

本田技研(株)が N-WAGON、N-BOX に使用している「アレルクリーンプラス」を(株)内田洋行がオフィス用チェアの表生地採用した。

「アレルクリーンプラス」には、抗アレル物質剤と抗ウイルス剤が含まれている。

○目指したのはエグゼクティブレベルの快適さ 和の伝統美に根差したコンセプトシート

東洋紡(株)、東洋紡 STC(株)、東洋クロス(株)

○クルマ用シートだからこそホームユース オフィスでも高い機能を発揮してくれる
 長距離用トラックに使用しているシートをオフィス使用に提案している。
 ○和のボトルクーラー「輝夜(KAGUYA)」

ブリッド(株)

(株)アイ・イー・ジェー

◆＜新聞、他＞

織研新聞

・2021 年 1 月～2 月 の衣料品の輸入(ニット製品、布帛製品、付属品) (前月と同内容)

順位	国	数量:百万点(増減%)	シェア	金額:億円(増減%)	シェア
1	中国	97 (24. 0)	62. 1	2, 411 (10. 1)	57. 0
2	ベトナム	21 (▼5. 3)	13. 4	655 (▼13. 6)	15. 5
3	カンボジア	7 (1. 7)	4. 6	184 (▼10. 8)	4. 4
4	バングラデ シュ	10 (▼10. 1)	6. 8	189 (▼20. 6)	4. 5
5	ミャンマー	5 (▼22. 5)	3. 5	136 (▼32. 8)	3. 2
	全世界計	156 (9. 1)	100	4227 (▼3. 9)	100

出所:日本貿易統計

IV. 企業紹介、製品紹介

株式会社 キタイ



洛東化成工業株式会社

GOTS 付加物 承認製品	天然由来 の仕上げ剤
RACTASE SD	ラクソフト シリーズ
DESCO FTR-40	ラクタット シリーズ
セルロース繊維	ラクセツ シリーズ
バイオ加工剤	
エンチロン シリーズ	

洛東化成工業株式会社
〒520-2277 滋賀県大津市関津 4-5-1
TEL : 077-546-0333
URL : <https://rakuto-kasei.co.jp/>
E-mail : info@rakuto-kasei.co.jp



「JTCCニュース」では、毎月数社の企業紹介や製品の案内をさせていただきます。

掲載をご希望の方は、Jtccnews@mbr.nifty.com に投稿してください。(掲載料金は無料です)

賛助法人・団体会員様の声(技術的な問題、JTCCに対する声などをメールでお聞かせください)

連絡先: jtccnews@mbr.nifty.com

JTCCニュース用のメールアドレスは、Jtccnews@mbr.nifty.com です。

編集: 一般社団法人 日本繊維技術士センター 企業接点強化部会 金田哲郎

一般社団法人 日本繊維技術士センター(JTCC)

本部事務所 〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目4番9号 輸出繊維会館6階

☎ 06-6484-6506 FAX 06-6484-6575 E-Mail jtcc@nifty.com

関東支部事務所 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-9(滋賀ビル506号室)

☎ 03-5643-5112 FAX 03-5614-0103 E-Mail jtcc-kt@nifty.com

東海支部事務所 〒460-0011 名古屋市中区大須1丁目35-18 一光大須ビル7階

(公財)中部科学技術センター内 ☎ 052-231-3043(代) FAX 052-204-1469